

総合学術誌『震災学』

(2012年7月～2023年4月)

『創刊号』



2012年7月発売

震災が問いに付したことは数知れないし、測り知れない。エネルギーの問題、ジャーナリズムの問題、福島第一原子力発電所事故、津波、どれをとっても問題の及ぼす範囲は幅広い。

大学では、こうした一連の湧き出してきた問題、一つの専門化された学問では解決しようもない問題にどう対処し、どう答えようとしているのか。

『震災学』を発刊することは、被災した地にあって被災した人々とともに苦しみ生きてきた大学においてこそ、なされなければならないことと考える。すべての問いと課題に一挙に解答を与えることなどできない。この本が、問いを共有する者たちにとって、互いに意見を交換し合う場となることを望んでいる。

【目次】

創刊に寄せて／『震災学』編集委員会

第一章 震災が問うた基礎的な諸問題

- シンポジウム「復活と創造 東北の地域力」基調講演
人間復興を求めて 新生東北が日本を変える／内橋克人（経済学者）
- 災厄と経験／佐々木俊三（東北学院大学教養学部教授）
- 東日本大震災被災地・者に、市民はどのような支援活動を行ったのか
市民社会の奥深い存在を見出すために／岡本仁宏（関西学院大学法学部教授）

第二章 被災地の現実

- 「棄民」と「帰民」を分けた創造的復興
- 日本の災害復興を考える／山中茂樹（関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員）
- 「現実を見ること」と「現実に見られていること」／郭基煥（東北学院大学経済学部准教授）
- 震災ブログから振り返る原発事故被災地の一年／寺島英弥（河北新報社編集局編集委員）
- 被災地の現実 宗教の立場から／川上直哉（仙台キリスト教連合被災支ネットワーク（東北ヘルプ）事務局長）

- 大震災があらわにしたもの／熊谷達也（作家）

第三章 災害とボランティア

- シンポジウム「東日本大震災と学生ボランティアの役割—大学間連携による取り組みとその課題—」基調講演
ボランティアと市民社会 阪神・淡路大震災と東日本大震災からの問題提起／似田貝香門（東京大学名誉教授）
- 原発被災地における〈逗留者〉の「活動の論理」—原発四五km圏＝相馬市におけるボランティアとネットワーク—／齊藤康則（東北学院大学経済学部講師）
- 大学による災害ボランティア活動への取り組みに関する一管見 東北学院大学災害ボランティアステーションの体験から／阿部重樹（東北学院大学経済学部教授）

第四章 唐桑の漁業と災害

- 座談会「復活と創造 東北の地域力」三陸の資源と産業
非常識への挑戦から新たな連携へ／畠山重篤（NPO 法人森は海の恋人代表）×村上教行（イオンモール会長）×星宮望（東北学院大学学長）
- 津波と海の民俗 宮城県気仙沼市唐桑町の伝承文化から／川島 秀一（神奈川大学特任教授）
- なぜ集団移転地は海が見えるところでなければならないのか 気仙沼市唐桑町舞根の海にみる領域意識／植田今日子（東北学院大学教養学部講師）
- 遠くから私が気仙沼にこだわるいくつかの理由
「ドキュメント」のひとつとして／梅屋潔（神戸大学国際文化学研究科准教授）

第五章 災害とジャーナリズム

- 情報ボランティアと東日本大震災
ハイパーローカルメディアとしての実験／八浪英明（河北新報社編集局デジタル編集部長）
- ソーシャルメディア時代における地方紙の役割と地方発信の意味／藤代裕之（ジャーナリスト）

記録

- 東日本大震災十日間のドキュメント

東北学院大学 ウェブサイトより引用

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/research/journal/shinsaigaku/01.html>



総合学術誌『被災学』

(2024年3月～)



東日本大震災発災の翌年となる 2012 年 7 月 20 日、本書の前身『震災学』が創刊され、これまで 17 号を発刊するに至りました。『震災学』では、研究者だけでなく震災に関わった多様な関係者の目線を通し、東日本大震災によって発せられることのなかった人々の声を丁寧に掘り起こすことで、不断の営みを続けることが如何に難しく、如何にして刹那に失われてしまうのかという点について考えてきました。

東日本大震災以降、我が国では多種多様な自然災害が発生しています。また、少し目を広げれば、世界では自然災害だけではなく、戦禍という愚かな人災も発生しています。『震災学』では、日々、何処かで失われている不断の営みについて十分に熟思できていたでしょうか。

この問いに対する応答として、本書『被災学』を創刊いたします。感情のみ想起させる記事を、その応答にしたいくはありません。尋常一様であるべき不断の営みの大切さや儚さに対する理解を核とし、被災のメカニズムや被害、被災からの復興、被災によって失われる声、被災によって溢れ出る感情など、各号に不拔の意思となるテーマを設け、いつか被災を経験する人、これまでに被災を経験した人、このような人たちにとっての知識、闇夜のともし火となるような書籍としていきます。

【目次】

- ・ 〈被災学〉創刊にあたって／坂本泰伸
- ・ インタビュー：〈被災学〉のはじまりに／いとうせいこう・聞き手◎坂本泰伸

第1章 被災から学ぶ

- ・ 〈被災〉の想像力 関東大震災と仙台・宮城／川内淳史
- ・ 災害時の外国人犯罪神話 選民意識とパニック／郭基煥
- ・ 旧制一高生の手記『大震の日』復刊の現場から 100年後の東京に捧ぐ／木戸崇之-
- ・ 被災者とは誰か 〈被災〉の問いの始まりとして／渡邊圭
- ・ 喪失と物語 関東大震災後の泉鏡花小品をめぐって／茂木謙之介
- ・ [日本災害復興学会 2023 年度静岡大会分科会] 北海道胆振東部地震から 5 年、報道対応と情報発信について考える／定池祐季×小山敏史×福島英博×所澤新一郎×津久井進

第2章 能登半島地震

- 喪失の風景 県都金沢から半島被災地へ／山川徹
- 能登瞬描 自治体災害対応支援の活動覚え書き／高原耕平
- 能登半島地震と秋田豪雨、ふたつの現場から 災害報道記者が見た被災地／柴崎吉敬

第3章 東日本大震災を問う

- コンヴィヴィアリティの喪失と惨めな笑劇 原発事故処理水放出をめぐる社会的プロセス／郭基煥
- 〈伝承なき復興〉から〈教訓を踏まえた復興〉へ 福島で試される人類／前川直哉
- [東京自由大学主催連続講座〈信じること、生きること～人間の弱さを見つめて II〉東北の声――予期せぬ死に寄り添う] 「最期の声」の現場から 災害関連死とはなにか／山川徹×島藺進

第4章 被災から生まれる視点

- 北海道と東北から考える人と水辺、土地の記憶 『水辺の小さな自然再生人と自然の環を取り戻す』／中川大介 聞き手◎定池祐季
- 時を隔ててよみがえる震災の〈主観〉 『五感でとらえなおす 阪神・淡路大震災の記憶』／金菱清

第5章 仙台短編文学賞

- 第7回仙台短編文学賞受賞作発表／川元茂
- [選評] 東北学院大学賞／大西晴樹◎仙台市長賞／郡和子◎河北新報社賞／安野賢吾
- 受賞の言葉――浅井楓◎湯谷良平◎郭基煥
 - 東北学院大学賞「擬態」／浅井楓
 - 仙台市長賞「ポリエステル伝導」／湯谷良平
 - 河北新報社賞「声の場所」／郭基煥

東北学院大学 ウェブサイトより引用

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/research/journal/hisaigaku/01.html>

